2024年度　こまき市民「多文化共生」ワークショップ
～みんなで小牧の多文化共生を考えよう～
実施報告

1．ワークショップの概要

（1）　開催趣旨・目的

小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】を周知するとともに、「挑戦すること」の進捗状況の把握に努め、達成状況調査を補完することを目的に開催した。日本人市民と外国人市民による多文化共生の課題についての意見交換を行った。今年度は仕事をテーマに話し合った。

（2）　実施概要

日時：9月8日（日）13：30～15：45

場所：小牧市役所　本庁舎6階　601会議室

対象：市内在住・在勤・在学の日本人市民・外国人市民

日本語でのコミュニケーションをベースにして、外国人市民の母国語にも極力配慮しながら、意思の疎通ができる方を対象とした。

当日参加者数：20名（内、外国人市民は 11名）

（3）　スケジュール

項目	時間帯	内容
1.一般受付	13：15	
2.挨拶	13：30	小牧市多文化共生推進室長の挨拶
3.現状について	13：33	多文化共生推進室より、小牧市における外国人住民を取り巻く状況の変化と多文化共生推進プランについて説明
3.多文化共生事例報告	13：39	サンダイ技建の加藤社長から外国人の働きぶりについて事例紹介

4.プログラム説明	13：49	ワークショップの進め方について説明
5.グループ自己紹介	13：57	グループ内でメンバーの簡単な自己紹介、アイスブレーキング
6.グループワーク	14：12	それぞれの母国や住んだことのある国の労働事情について話し合う
7.グループ発表	15：02	まとめた意見、気づいたことをグループごとに発表
8.講評	15：22	加藤社長より、グループワークの講評
9.終了の挨拶	15：27	多文化共生推進室長より挨拶
10.アンケート記入	15：31	アンケートの記入・解散

※日本語レベルが初級以下の参加者は、日本語が上手かつ母語が同じ参加者と同じグループに配置するといった配慮を行う。

（４）　配布資料

・ワークショッププログラム
・多文化共生推進プラン
・アンケート

（５）　おしらせ方法

ワークショップは、下の方法で、周知した。

・募集チラシの配架
・広報こまき、外国語版生活情報誌、小牧市ホームページ
・普段からつながりのある人にメール

２．ワークショップの結果のまとめ

仕事をテーマに各国の考え方やルールを出し合い、気づいたことをグループ内でまとめた。

（１）　グループの発表

Aグループ（スペイン語）

・（ペルー）有給を1カ月まとめて取得できる。

・（ペルー）産休は3カ月。日本は1年～2年とれるから安心。
・（ペルー）昼休憩中も、給与が支払われる。
・（ペルー）残業代が出ない。
・（ペルー）派遣会社がなく、皆が正規職員でボーナスは皆がもらうことができる。
・（ペルー）給料の前借制度がない。
・（ペルー）月給25万円あれば、家族4人よい生活ができる。

Bグループ（ベトナム語/やさしい日本語）
・（ベトナム）土曜日も仕事がある。
・（ベトナム）定年は男性60歳、女性55歳で、定年後は働く子供の代わりに家事をして生活を助ける。
・（日本）定年後は、通学団ボランティアなど社会貢献活動をして、社会とつながりを持とうとする人が結構いる。

Cグループ　（スペイン語/やさしい日本語）
・（メキシコ/ペルー）9時間労働。
・（メキシコ/ペルー/日本）遅刻は厳禁。
・（ペルー）ストライキが多い。
・（ペルー）大卒の人は海外で仕事を探す。

Dグループ　（スペイン語/やさしい日本語）
・（ボリビア）障がい者は、働いている人はあまりいない。
・（ボリビア）保育園では日本ほど支援が手厚くない。
・（ボリビア）仕事が終わったら家族で過ごす。

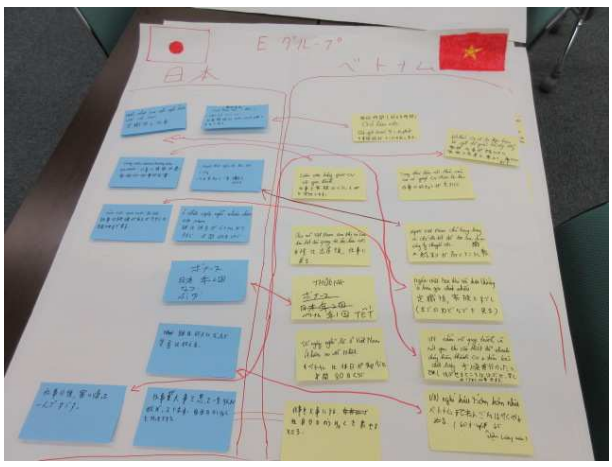
Eグループ　（ベトナム語）
・（ベトナム）就業15分前に出勤し、仕事の準備をする。
・（ベトナム）仕事も家庭もどっちも大切だが、日本は仕事のほうが大切にしているように見える。
・（ベトナム）産後復帰が早いが、日本は妊娠したら仕事を辞める人が多いように見える。

【講師講評】

当たり前だと思っていたことが、当たり前でないという気づきがたくさんあった。違いがあることを知ることは、貴重な経験である。「息を交わす」という言葉があるが、相手の意見を聞くことはとても大切。「息」は「自」と「心」を合わせた文字。自らの心を交わし、相手を理解していきたい。違いに遭遇すると戸惑いもあるが、今日は息を交わすことができるワークショップとなった。

（２）　アンケート

アンケートでは、多文化共生推進プランの進捗状況のほか、ワークショップで参考になった意見や、自身で改善していけることなどについて質問した。違いを理解したうえでコミュニケーションをとる必要性やゴミの分別・交通ルールなどの啓発の大切さついて、回答があった。

アンケート項目や集計結果については、別紙を参照。

３．ワークショップの様子（当日写真）